

令和8年度

シラバス



商業科3年

国語	2
公民	6
数学	8
理科	10
保健体育	14
外国語(英語)	16
家庭	18
商業	20

入学年度			令和6年度				備考
学年			1	2	3	計	
教科	科目	標準 単位					
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国語	現代の国語	◎2	2			2
		言語文化	◎2	2			2
		論理国語	4		2	2	4
		文学国語	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2
		歴史総合	◎2	2			2
	公民	公共	◎2		2		2
		政治・経済	2			2	2
	数学	数学Ⅰ	◎3	4			4
		数学Ⅱ	4		2	2	4
	理科	科学と人間生活	◎2		3		3
		化学基礎	○2			▲2	▲2
		生物基礎	○2			▲2	▲2
	保健体育	体育	◎7~8	3	2	3	8
		保健	◎2	1	1		2
	芸術	音楽Ⅰ	○2	□2			□2
		美術Ⅰ	○2	□2			□2
		書道Ⅰ	○2	□2			□2
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	2	2		4
		論理・表現Ⅰ	2			2	2
家庭	家庭総合	◎4		2	2	4	
情報	情報Ⅰ	2					
科目単位数計			20	18	17	55	「情報Ⅰ」は 「情報処理」で代替
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	商業	ビジネス基礎	◇2~4	3			3
		課題研究	◇2~4			3	3
		総合実践	2~4			3	3
		マーケティング	2~4		4		4
		観光ビジネス	2~4			2	2
		簿記	2~4	3			3
		財務会計Ⅰ	2~4		☆4		☆4
		原価計算	2~4			■4	■4
		情報処理	◎2~4	2	2		4
		ソフトウェア活用	2~4		☆4		☆4
		ネットワーク活用	2~4			■4	■4
科目単位数計			8	10	12	30	
総探	福山みらい創業塾	◎3~6	2	2		4	
	キャリアプラン				1	1	
合計			30	30	30	90	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週当たり総時数			31	31	31	93	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	国語 「論理国語」	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 疇 困 能	評価の観点				
		学習の目標					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度		
		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。				使用教科書 東京書籍 新編論理国語 副 教 材 尚文出版 漢字パーフェクトクリア					
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1 時代をひらく	・論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉える。	単 元 テ ス ト ・ 一 学 期 期 末	○	○	○			
		5月		・未知の世界に飛び込んでゆく勇気や、本当の豊かさについて思考を深める。							
		6月	2 新しい視点から	・体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉える。		○	○	○			
		7月		・筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。							
	2 学 期	9月	3 科学と人間	・科学や哲学の見地から書かれた評論を読んで、人間について考えを深める ・人間に対する筆者の考えを捉え、人間の意志や自由について理解を深める。	単 元 テ ス ト ・ 二 学 期 期 末	○	○	○			
		10月	4 豊かな認識	・評論を読んだ的確に理解し、論じられている物事への認識を深める。 ・言葉の働き、また科学的視点の持ち方とその意義などについて理解し、考える。		○	○	○			
		11月	5 知のゆくえ	・対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉える。		○	○	○			
		12月		・情報と知識、思考について現代を生きるうえで必要な態度を考える。							
	3 学 期	1月	6 明日を見つめて	・具体と抽象に着目して、評論の内容を的確に読み取る。 ・例と説明、部分と全体の関係を読み取り、内容を理解し考える。	卒 業	○	○	○			
学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。									

教 科	国語	科 目 名	論理国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解し、日常生活の中で使いこなせる。	おおむね理解し、日常生活で使うことができる。	理解していない、使うことができない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	問いに対する答えを的確に記せている。	問いに対する答えを記せている。	問いに対する答えを記すことができない。
	授業	ノート	板書事項を正確に記した上で、その他の重要事項も書き込み、分かりやすくまとめている。	板書事項を正確に記している。	板書事項を正確に記すことができていない。
	授業	ワークシート	自分の考えや問いに対する答えを的確に記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記せている。	自分の考えや問いに対する答えを記すことができない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	課題の内容を理解し、しっかりと取り組んでいる。	課題をある程度取り組んでいる。	課題に取り組んでいない。
授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	国 語		履修学年	3 学 年 2 単 位	考 査 範 疇	評価の観点		
		科目名	「文学国語」		単 位 数			知 識	思 考 ・ 判 断	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>(4) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にする。言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					単元テスト・一学期期末	○	○	○
教 材		<p>使用教科書 大修館書店 新編文学国語</p> <p>副 教 材 国語必携 パーフェクト演習</p>								
学習の内容	1 学期	4月	1 心を見つめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・ 文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。 		単元テスト・一学期期末	○	○	○	
		5月	2 小説を楽しむ(二)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながらよむ。 ・ 登場人物の考え方を捉え、自分の考えと比較しながら考えを広げる。 						
		6月	古典の世界 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、読みを深める。 						
		7月	4 短歌・俳句に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わう。 ・ 印象的に表現するための言葉や表現を工夫する。 						
	2 学期	9月	3 文化を感じる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の考える人を感動させるための方法を考える。 ・ 引用された作品を読み、解釈を深める。 		単元テスト・二学期期末	○	○	○	
		10月	5 小説を味わう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場するものたちの性格や心理を読み取る。 ・ 作品のおもしろさと、込められた寓意性を読み取る。 						
		11月	古典の世界 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の概要や文体の特徴を知り、文学史上の位置づけを理解する。 ・ 歴史の中で生きた人間の人物像や心情を読み取り、作品の読みを深める。 						
12月		6 名作を読む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・ 優れた表現に触れ、読み味わう。 							
3 学期	1月	7 文学を生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 		卒業 考 査	○	○	○		
	2月									
	3月									
学習の方法 予習・復習 ノート等		<p>(1) しっかりと活動に参加することが大切です。</p> <p>(2) 提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。</p> <p>(3) ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。</p>								
評価方法		<p>(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート)</p> <p>(2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表)</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み)</p> <p>単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。</p> <p>A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)</p>								
備考欄		<p>週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。</p> <p>国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。</p>								

教 科	国語	科 目 名	文学国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解し、日常生活の中で使いこなせる。	おおむね理解し、日常生活で使うことができる。	理解していない、使うことができない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記している。	やや空欄はあるが、ワークシートが記している。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	問いに対する答えを的確に記している。	問いに対する答えを記している。	問いに対する答えを記すことができない。
	授業	ノート	板書事項を正確に記した上で、その他の重要事項も書き込み、分かりやすくまとめている。	板書事項を正確に記している。	板書事項を正確に記すことができていない。
	授業	ワークシート	自分の考えや問いに対する答えを的確に記している。	自分の考えや問いに対する答えを記している。	自分の考えや問いに対する答えを記すことができない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができてたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	課題の内容を理解し、しっかりと取り組んでいる。	課題をある程度取り組んでいる。	課題に取り組んでいない。
授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 学 科		教科 科目名	公 民 政治・経済	履修学年 単 位 数	3 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		教科書「政治・経済」 東京書籍 補助教材『要点マスター政治・経済 整理と演習』 東京書籍							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治	1 学 期 中 間	○	○	○		
			1 節 民主政治の基本原理						
		5月	2 節 日本国憲法の基本原則						
			3 節 日本の政治機構						
		6月	4 節 現代政治の特質と課題						
			第2章 現代日本の経済						
		7月	1 節 現代の資本主義経済	1 学 期 期 末	○	○	○		
		2 節 現代経済のしくみ							
		3 節 日本経済の発展と現状							
		9月	4 節 福祉社会と日本経済の課題						
	2 学 期		第3章 現代日本の諸課題 ・少子高齢化、地域活性化、働き方の多様化、中小企業の課題他						
		10月	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治					2 学 期 中 間	○
		1 節 国際政治のしくみ							
		2 節 複雑化する国際政治と日本							
11月	第2章 現代の国際経済								
	1 節 国民経済と国際経済	2 学 期 期 末	○	○	○				
12月	2 節 世界経済の現状と課題								
3 学 期	1月	第3章 国際社会の諸課題	学 年 末	○	○	○			
	2月								
	3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2) 用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3) 常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能（授業態度、学習課題、考査等） (2) 思考・判断・表現（授業態度、学習課題、考査等） (3) 主体的に学習に取り組む態度（授業態度、学習課題、考査等） 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A（十分満足できる） B（おおむね満足できる） C（努力を要する）							
備 考 欄		※考査前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。							

教 科	公民	科 目 名	政治・経済
-----	----	-------	-------

知識・技能	到達目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった(欠席も含む)。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分からなかった。	全く理解できなかった(欠席も含む)。
思考・判断・表現	到達目標	・公民的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。		
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・公民的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度 (定期考査)	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりとって取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった(参加できなかった)。
	課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	取組みが良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取組みに不足があり、期限に迫られて(遅れて)取り組んでいた。	全く取組まなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	数学 数学Ⅱ	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、事象を論的に考察する力、簡潔・明瞭・論理的に表現する力を養う。数学の良さを認識し考察を深め、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書 東京書籍「新数学Ⅱ」							
学習の内容	1 学 期	4月	4章 指数関数と対数関数 1節 指数関数 整数の指数 累乗根 分数の指数	・指数の範囲を整数全体に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。さらに、分数から実数全体に拡張する。	中間 考 査	○	○	○	
		5月	指数関数とそのグラフ 指数関数の利用	・指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかくことができる。 ・指数関数の大小比較や指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ・身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。		○	○	○	
		6月	2節 対数関数 対数・対数の性質 対数関数とそのグラフ	・対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。また、対数の性質を理解し、それを用いて対数の計算をすることができる。 ・対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。		○	○	○	
		7月	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 平均変化率・微分係数 導関数・導関数の計算	・微分係数を定義により求める。 ・導関数を利用して微分係数を求める。		○	○	○	
		9月	接線	・曲線状の点における接線の方程式を求める。		○	○	○	
		10月	2節 導関数の応用 関数の増加・減少 関数の極大・極小	・導関数の符号を利用して、関数の増減を調べる。 ・極大、極小の意味を理解し、極大値と極小値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。		○	○	○	
	2 学 期	11月	関数の最大・最小	・ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。また、それを利用して身近な問題を解決できる。	○	○	○		
		12月	3節 積分 不定積分	・不定積分と定積分の意味を理解し、公式を用いてそれを求めることができる。	○	○	○		
		3 学 期	1月	定積分 面積 課題学習	・定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)板書事項をノートにとり、自分なりの補足等してまとめましょう。 (2)授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3)授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4)提出物は期限を守り、積極的に取り組みましょう。 (5)授業を振り返り、次回へいかしましょう。						
	評価方法	(1)知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2)思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3)主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考査等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
	備考欄								

教 科	数学	科 目 名	数学Ⅱ	
-----	----	-------	-----	--

知識・技能	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身に付けている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	課題の取り組み	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、積極的に取り組んだ。	課題に取り組むことができた。	課題に取り組むことができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の良さを認識し、数学を活用しようとしている。 ・自分の考えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。 			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	理科	履修学年	3学年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	化学基礎	単位数	2単位		知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。							
教 材		教科書 第一学習社 高等学校 新化学基礎 副教材 浜島書店 基本新ステップノート化学基礎							
学習の内容	1 学 期	4月	化学と人間生活	・人間生活の中の化学について金属やプラスチックを例に学習する。		○	○	○	
		5月	物質の分離	・混合物から純物質を取り出す方法を学習する。 (実験 ろ過)		○	○	○	
		6月	原子	・物質を構成する粒子について学習する。 (実験 硫黄の同素体)		○	○	○	
		7月	化学結合	・イオン結合、共有結合、金属結合について学習する。 (実験 水溶液の電気伝導性)		○	○	○	
	2 学 期	9月	結合のまとめ	・イオン結晶、共有結合による結晶、金属結晶について学習する。		○	○	○	
			物質の質量	・小さい粒子の質量の扱い方を学習する。 ・物質の質量と体積の関係について学習する。		○	○	○	
		10月	化学反応式	・化学反応の表し方や量的関係について学習する。 (実験 化学反応における量的関係)		○	○	○	
		11月	酸と塩基	・酸、塩基の性質について学習する。 ・pHについて学習する。		○	○	○	
	3 学 期	12月	中和反応	・酸と塩基を混ぜると、その性質が打ち消されることを学習する。 (実験 中和滴定)		○	○	○	
		1月	酸化と還元	・日常生活に利用されている酸化還元反応について学習する。		○	○	○	
	2月	電池電気分解	・酸化還元反応の身近な例について学習する。		○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄									

教 科	理 科	科 目 名	化学基礎
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた。	手順をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる。	実験結果を記録できた。	全く記録しなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説を設定できる。	課題や仮説を設定できない。
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	実験結果を考察できた。	全く考察できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思ふこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した。	意見を聞くことができた。	活動に参加しなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	理科	履修学年	3学年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	生物基礎	単位数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。							
教材		教科書：東京書籍 新編生物基礎 副教材：東京書籍 ニューサポート 新編 生物基礎							
学習の内容	1 学 期	4月	多様性と共通性	・進化の面から、生物の多様性と共通性について学ぶ。 (実験 植物細胞の観察)	1 学 期 期 末	○	○	○	
		5月	エネルギー	・細胞とエネルギー、遺伝物質としてのDNAについて理解する。(実験 光合成色素の分離、酵素の働き)		○	○	○	
		6月	遺伝子	・遺伝情報のメカニズムを知る。(実験 DNAの抽出) ・DNAの複製と分配について学ぶ。		○	○	○	
		7月	タンパク質	・タンパク質の構造について学ぶ。 ・タンパク質と遺伝情報について学ぶ。		○	○	○	
	2 学 期	2 学 期 中 間	9月	体内環境	・体内の恒常性を維持するタンパク質からなる酵素やホルモンの種類をその性質とともに学ぶ。	○	○	○	
			10月	神経	・神経システムとその機構について学ぶ。 ・ホルモンのはたらきについて学ぶ。(実験 イリコの解剖)	○	○	○	
		2 学 期 期 末	11月	免疫	・免疫システムとその機構について学ぶ。 ・ヒトの免疫について学ぶ。 ・免疫と疾患について学ぶ	○	○	○	
			12月	植生	・植物の植生とその構造について学ぶ。 ・植物の極相について学ぶ。	○	○	○	
	3 学 期	卒 業	1月	気候	・バイオームの分布について学ぶ。	○	○	○	
			2月	生態系	・地球環境の保全について、生物学的な立場から学ぶ。	○	○	○	
			3月		(実験 水生生物による河川の水質調査)	○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。						
評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄									

教 科	理 科	科 目 名	生物基礎	
-----	-----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた。	手順をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる。	実験結果を記録できた。	全く記録しなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説を設定できる。	課題や仮説を設定できない。
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	実験結果を考察できた。	全く考察できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した。	意見を聞くことができた。	活動に参加しなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	保健体育 体育	履修学年 単 位 数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。							
教 材		使用教科書 (大修館書店)現代高等保健体育 副 教 材 (大修館書店) 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ							
学習の内容	1 学 期	4月	オリエンテーション	・授業の心得、体育館施設利用の説明 ・集団行動	・集団行動の基本的動作確認			○	○
		5月	体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習				○	○
		6月	球技Ⅰ・武道 選択	・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習			○	○	○
		7月	体育理論	・豊かなスポーツライフの設計(①～③)			○	○	○
	2 学 期	9月	球技Ⅱ・武道 選択	・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習			○	○	○
		10月	球技Ⅲ・武道 選択	・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習			○	○	○
		11月	陸上競技	・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける。			○	○	○
		12月	体育理論	・豊かなスポーツライフの設計(④～⑥)			○	○	○
	3 学 期	1月	球技Ⅲ	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習			○	○	○
		2月	体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習				○	○
		3月							
	学習の方法 予習・復習 ノート等		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。 ・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。						
評価方法		(1) 知識・技能(スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現(学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題への取り組み、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。							

教 科	保健体育	科 目 名	体育	
-----	------	-------	----	--

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する。	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける。	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する。	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決できていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる。	観察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。	観察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	外国語(英語) 論 理・表 現 I	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	評価の観点			
学習の目標						考 査 範 囲	知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書<開隆堂>Amity English Logic and Expression I 副教材<開隆堂>Amity English Logic and Expression I ワークブック 副教材<旺文社>英単語ターゲット1200【改訂版】							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	Pre-Lesson 1-4 身の回りにあるものの英語、いろいろな品詞、文の種類等を確認する。	1 学 期 中 間 考 査	○	○	○		
			Lesson1 現在形の用法を学習し、自分や周りの人などを表現する。		○	○	○		
		4月～5月	Lesson2 過去形の用法を学習し、過去の事実や出来事について表現する。	1 学 期 末 考 査	○	○	○		
			Action Part 1 友達の好きなものについて質問をしたり、発表したりする。		○	○	○		
		6月	Lesson3 現在進行形と過去進行形の用法を学習し、過去の事実や今していること、過去にしていたことについて表現する。	2 学 期 中 間 考 査	○	○	○		
			Lesson4 未来を表す表現(will, be going to)を学習し、自分のことやこれから起こることなどを表現する。		○	○	○		
	7月	Lesson5 助動詞(can, may)の用法を学習し、自分ができることを表現したり、将来の自分に手紙を書く。	2 学 期 末 考 査	○	○	○			
		Lesson6 助動詞(must, should)の用法を学習し、しなくてはならないこと、やらなければならないルールについて表現する。		○	○	○			
		Action Part 2 富士山登山について英語で発表する。	卒 業 考 査	○	○	○			
	2 学 期	9月		Lesson7 現在完了形(完了、結果、経験)の用法を学習し、身の回りで起こったことや自分の経験などを表現する。	1 学 期 中 間 考 査	○	○	○	
			Lesson8 現在完了形(継続)と現在完了進行形を学習し、身の回りで起こっていることや継続してきたことなどを表現する。	○		○	○		
			Lesson9 受動形の用法を学習し身の回りの物や好きな本や作品などについて表現する。	2 学 期 末 考 査	○	○	○		
		10月	Lesson10 比較級と最上級の用法を学習し、身の回りのものや友達や家族について表現する。		○	○	○		
			Lesson11 同等比較と倍数比較の用法を学習し、身の回りのものや訪れたい国について表現する。	卒 業 考 査	○	○	○		
			Action Part 3 英語でオリジナルのクイズを作りクラスに出題する。		○	○	○		
		Lesson12 動名詞の用法を学習し、自分や周りの人、好きなことについて表現する。	卒 業 考 査	○	○	○			
	11月	Lesson13 to不定詞の名詞的用法とit is to...の用法を学習し、身の回りのものや感情などを表現する。		○	○	○			
		Lesson14 to不定詞の前置詞的用法と形容詞的用法を学習し、活動の目的や身の回りの物などを表現する。	卒 業 考 査	○	○	○			
	Lesson15 現在分詞と過去分詞の用法を学習し、人や身の回りのもの、友達や家族などについて表現する。	○		○	○				
	Lesson16 関係代名詞(主格、目的格)の用法を学習し、身の回りのものや興味のあることなどについて表現する。	卒 業 考 査	○	○	○				
12月	Action Part 3 日本のお土産についてスキットを演じる。		○	○	○				
	Lesson17 関係代名詞(what)の用法を学習し、身の回りのものや興味のあることなどについて表現する。	卒 業 考 査	○	○	○				
	Lesson18 関係代名詞(where, when)の用法を学習し、場所や時など詳しく表現する。		○	○	○				
3 学 期	1月	Lesson19 仮定法過去の用法を学習し、願望や助言、行ってみたい時代になどについて表現する。	卒 業 考 査	○	○	○			
		Lesson20 接続詞について学習し、理由や春休み行きたい場所などについて表現する。		○	○	○			
学 習 の 方 法 予 習・復 習 ノ ー ト 等	(1)授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2)必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3)授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4)授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5)週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。								
評 価 方 法	(1)知識・技能(定期考査・小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト等) (2)思考・判断・表現(定期考査・ノート・ワークブック・英作文/レポート・発表/プレゼンテーション・パフォーマンステスト等) (3)主体的に学習に取り組む態度(ノート・振り返りシート・課題・発表・授業態度・パフォーマンステスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄									

教 科	外国語(英語)	科 目 名	論理・表現 I	
-----	---------	-------	---------	--

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと(やりとり)、話すこと(発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄である。
	授業	パフォーマンステスト	簡単で正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを書き、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを書き、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを書いていない、英語を用いて表現できていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を書き、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を書いている。	空欄が多く、授業内容を書いていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを書き、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書いていない。英語を用いて表現できていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを書き、表現豊かに記している。	自分の考えを書き、表現ができている。	自分の考えを書いていない。英語を用いて表現できていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・学んだ内容を活用して、積極的に発表しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート・ワークブック	板書事項をきちんと書き、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を書いている。	板書事項を書いていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容の振り返りができている。	単元の学習内容の振り返りができていない。
	課題	課題	すべての課題に関して、内容をきちんと書いている。	内容を概ね書いている。	内容が書かれていない。
	授業	発表プレゼンテーション	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科 科目名	家庭 家庭総合	履修学年	3学年	考 査 範 囲	評価の観点			
				単位数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実に向上を図る能力と実践的な態度を育てる。								
教材		使用教科書： 大修館書店「家総705」 「Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう」								
学習の内容	1 学期	4月	第10章 衣生活のマネジメント	・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身につける。 ・よりよい衣生活の創造について考え、工夫する。		一 学 期 期 末	○	○	○	
		5月								
		6月								
		7月	第3章 家族・家庭生活のマネジメント	・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。			○	○	○	
	2 学期	9月	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント	・乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深める。 ・子供との適切な関わり方を工夫し、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深める。		二 学 期 期 末	○	○	○	
		10月								
		11月	第5章 高齢期の生活のマネジメント	・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身につける。 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。 ・家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、適切な支援の在り方や関わり方を工夫する。				○	○	○
			第6章 共生社会をつくる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・家庭と地域との関わりについて理解する。 ・様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深める。 ・共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫する。				○	○	○
	3 学期	12月	第11章 住生活のマネジメント	・住生活を取り巻く課題、住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深める。 ・各ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理に必要な技能を身につける。		学 年 末	○	○	○	
		1月	第7章 持続可能な社会をつくる	・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。 ・よりよい住生活の創造について考え、工夫する。 ・生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会への参画意義について理解を深め、主体的に行動できるよう、ライフスタイルを工夫する。				○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)説明事項や板書は、必ずワークシートに丁寧に記入しまとめましょう。適宜、提出を求めます。 (2)発表や実習等などの活動には、積極的に参加しましょう。 (3)発問に対し意欲的に考え、聞き手に分かりやすく伝わるように努めましょう。 (4)小単元毎に授業の振り返りを行い、次の授業へ生かします。 (5)提出物は、必ず期限内に提出しましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能(定期考査、小テスト、実習・実験等) (2) 思考・判断・表現(定期考査、ワークシート、レポート作成、発表、実習・実験、作品製作等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業や課題に取り組む態度、振り返りシートの記述、教師による行動観察、授業中の発言、自己評価や相対評価等の状況等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		・地域の認定こども園へ2学期に訪問予定です。								

教 科	家庭	科 目 名	家庭総合	
-----	----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している。	授業の内容をおおむね理解している。	あまり理解していない。
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している。	学んだ知識や技能を用い記述している。	学んだ知識や技能を用い記述できない。
	基本的な技能の習得	・被服作品の製作	手順を理解し、正確に縫製できる。仕上がりが丁寧。	基本的な手順を理解し、ほぼ正しく縫製できる。	手順の理解が不十分で、縫製に課題がある。
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する。	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話し合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定している。	生活の中から問題を見いだして課題を設定している。	生活の中から問題を見いだして課題を設定できていない。
	解決方法を検討し、計画、立案する。		生活課題について多角的に捉え、実践に向けた計画を考え工夫している。	実践に向けた計画を考え工夫している。	実践に向けた計画を考え工夫できていない。
	実践した結果を評価・改善する。		問題点や改善策を具体的に記述し、評価・改善している。	問題点や改善策を記述し、評価・改善している。	問題点や改善策を記述し、評価・改善していない。
論理的に表現する。	考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。		考察し表現している。	考察し表現できていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする。	・ワークシートの記述 ・自己評価、相互評価 ・振り返りシート	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組んでいる。	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組もうとしている。	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組むことができていない。
	自らの学習を調整しようとする。		学習内容について具体的に記述があり、次の学びにつながる振り返りができている。	感想部分にある程度の記述があり、振り返りができている。	見通しが持てず、感想もあまり記述できなかった。
	実践しようとする態度	・授業中の発言	発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている。	発問に対して意欲的に考え、発言をしている。	発問に対して考え、自分の意見を持つとしない。
・教師による行動観察			学習に主体的に参加し、理解につなげている。	学習に参加し、理解につなげようとしている。	学習への取り組みが物足りず、理解しようという姿勢が乏しい。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	商業 課題研究	履修学年 単 位 数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。					知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学 習 の 目 標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。							
教 材		使用教科書・副教材・その他研究調査、製作等に係る教材・材料 生徒が各自の研究テーマに沿って各自で教材や材料を収集してくる。							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	科目の目標とオリエンテーション	・科目の目標を理解し、研究上の注意事項を習得する。		無	○	○	○
			課題研究の活動時に守る事項	・著作権、肖像権等、留意することを学ぶ。			○	○	○
			研究計画を立てる	・研究計画を立てる際、自分が取り組むテーマに関するものを調べる。			○	○	○
		5月	研究計画書の作成	・研究に必要な教材・道具などを検討して研究計画書を作成する。			○	○	○
			産業現場体験実習分野の生徒はマナー指導、それ以外の生徒はそれぞれのテーマに向けての研究や準備	・産業現場体験実習分野の生徒は身だしなみ、立ち振る舞い、客対応の練習をする。それ以外の生徒は各自で必要なものを確認し、調査等を行う。			○	○	○
		6月	産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。		○	○	○	
		7月	各分野の確認テスト【知識・技能】	・各分野の確認テストを受ける。(紙あるいはICTによる)		○	○	○	
			1学期の振り返り	・研究の進捗度合いや内容、道具などについて振り返りシートを記入する。		○	○	○	
	2 学 期	9月	ディスカッション	・同じ分野を研究テーマとする生徒同士でお互いのテーマについて語り合い、意見交換する。		無	○	○	○
			産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。			○	○	○
		10月	中間報告会	・これまで研究してきた途中経過を発表する。			○	○	○
			各分野の確認テスト【知識・技能】	・各分野の確認テストを受ける。(紙あるいはICTによる)			○	○	○
	11月	産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。		○	○	○		
	12月	産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。		○	○	○		
		プレゼン資料の作成、調整	・発表資料を作成し、聞き手に見えやすいかチェックする。		○	○	○		
		プレゼンの練習	・発表の練習、道具使用のタイミングなどを考察する。		○	○	○		
3 学 期	1月	研究したことの最終報告会	・報告手段の適切で効果的な使用方法を学習する。		無	○	○	○	
		へ向けた準備、リハーサル、報告会	・報告時の表現のしかたを学習する。 ・最終報告書を作成する。			○	○	○	
学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等		<p>・課題研究には4つの分野があります。調査・研究、作品製作、職業資格の取得、産業現場体験実習です。どの分野もそれぞれの目的を達成するのに必要な知識・技能はありますので、担当者が確認テストを実施することがあります。各担当者からの指示をよく聞いて各分野の習得に励んでください。</p> <p>・中間報告会や最終報告会に向けて、発表資料だけでなく、表現力も重視します。研究成果を十分に伝えられるようプレゼンの練習も日頃からしておきましょう。</p> <p>・産業現場体験実習分野の生徒は各事業所からのご指導を次回の実習に活かしましょう。</p>							
評 価 方 法		<p>(1) 知識・技術(各分野の知識・実験・観察・実習・演習などへの取組)</p> <p>(2) 思考・判断・表現(各分野の知識・実験・観察・実習・演習などへの取組)</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度(各分野の知識・実験・観察・実習・演習などへの取組)</p> <p>単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。</p> <p>A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)</p>							
備 考 欄		<p>・課題研究は定期考査はありません。そのため普段の出席、真剣に取り組む態度、計画書、レポート授業内で行われる確認テストなど普段の取り組みがたいへん大きな評価となります。常日頃、課題意識を持って授業に臨みましょう。</p>							

教 科	家庭	科 目 名	家庭総合	
-----	----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している。	授業の内容をおおむね理解している。	あまり理解していない。
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している。	学んだ知識や技能を用い記述している。	学んだ知識や技能を用い記述できない。
	基本的な技能の習得	・被服作品の製作	手順を理解し、正確に縫製できる。仕上がりが丁寧。	基本的な手順を理解し、ほぼ正しく縫製できる。	手順の理解が不十分で、縫製に課題がある。
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する。	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話し合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定している。	生活の中から問題を見いだして課題を設定している。	生活の中から問題を見いだして課題を設定できていない。
	解決方法を検討し、計画、立案する。		生活課題について多角的に捉え、実践に向けた計画を考え工夫している。	実践に向けた計画を考え工夫している。	実践に向けた計画を考え工夫できていない。
	実践した結果を評価・改善する。		問題点や改善策を具体的に記述し、評価・改善している。	問題点や改善策を記述し、評価・改善している。	問題点や改善策を記述し、評価・改善していない。
論理的に表現する。	考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。		考察し表現している。	考察し表現できていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする。	・ワークシートの記述 ・自己評価、相互評価 ・振り返りシート	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組んでいる。	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組もうとしている。	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組むことができていない。
	自らの学習を調整しようとする。		学習内容について具体的に記述があり、次の学びにつながる振り返りができている。	感想部分にある程度の記述があり、振り返りができている。	見通しが持てず、感想もあまり記述できなかった。
	実践しようとする態度		・授業中の発言	発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている。	発問に対して意欲的に考え、発言をしている。
・教師による行動観察			学習に主体的に参加し、理解につなげている。	学習に参加し、理解につなげようとしている。	学習への取り組みが物足りず、理解しようという姿勢が乏しい。

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科 科目名	商業 課題研究	履修学年 単位数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。					知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書・副教材・その他研究調査、製作等に係る教材・材料 生徒が各自の研究テーマに沿って各自で教材や材料を収集してくる。							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	科目の目標とオリエンテーション	・科目の目標を理解し、研究上の注意事項を習得する。		無	○	○	
			課題研究の活動時に守る事項	・著作権、肖像権等、留意することを学ぶ。			○	○	
			研究計画を立てる	・研究計画を立てる際、自分が取り組むテーマに関するものを調べる。			○	○	○
		5月	研究計画書の作成	・研究に必要な教材・道具などを検討して研究計画書を作成する。			○	○	○
			産業現場体験実習分野の生徒はマナー指導、それ以外の生徒はそれぞれのテーマに向けての研究や準備	・産業現場体験実習分野の生徒は身だしなみ、立ち振る舞い、客対応の練習をする。それ以外の生徒は各自で必要なものを確認し、調査等を行う。			○	○	○
		6月	産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。		○	○	○	
		7月	各分野の確認テスト【知識・技能】	・各分野の確認テストを受ける。(紙あるいはICTによる)		○	○	○	
			1学期の振り返り	・研究の進捗度合いや内容、道具などについて振り返りシートを記入する。		○	○	○	
	2 学 期	9月	ディスカッション	・同じ分野を研究テーマとする生徒同士でお互いのテーマについて語り合い、意見交換する。		無	○	○	○
			産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。			○	○	○
		10月	中間報告会	・これまで研究してきた途中経過を発表する。			○	○	○
			各分野の確認テスト【知識・技能】	・各分野の確認テストを受ける。(紙あるいはICTによる)			○	○	○
	11月	産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。		○	○	○		
	12月	産業現場体験実習分野の生徒は現場実習、それ以外の分野の生徒は調査・研究・製作・資格勉強など	・産業現場体験実習分野の生徒は現場の講話・見学・実習、それ以外の生徒は調査、研究、製作、資格勉強をする。		○	○	○		
		プレゼン資料の作成、調整	・発表資料を作成し、聞き手に見えやすいかチェックする。		○	○	○		
		プレゼンの練習	・発表の練習、道具使用のタイミングなどを考察する。		○	○	○		
3 学 期	1月	研究したことの最終報告会	・報告手段の適切で効果的な使用方法を学習する。		無	○	○	○	
		へ向けた準備、リハーサル、 報告会	・報告時の表現のしかたを学習する。 ・最終報告書を作成する。			○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		<p>・課題研究には4つの分野があります。調査・研究、作品製作、職業資格の取得、産業現場体験実習です。どの分野もそれぞれの目的を達成するのに必要な知識・技能はありますので、担当者が確認テストを実施することがあります。各担当者からの指示をよく聞いて各分野の習得に励んでください。</p> <p>・中間報告会や最終報告会に向けて、発表資料だけでなく、表現力も重視します。研究成果を十分に伝えられるようプレゼンの練習も日頃からしておきましょう。</p> <p>・産業現場体験実習分野の生徒は各事業所からのご指導を次回の実習に活かしましょう。</p>							
評価方法		<p>(1) 知識・技術(各分野の知識・実験・観察・実習・演習などへの取組)</p> <p>(2) 思考・判断・表現(各分野の知識・実験・観察・実習・演習などへの取組)</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度(各分野の知識・実験・観察・実習・演習などへの取組)</p> <p>単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。</p> <p>A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)</p>							
備考欄		<p>・課題研究は定期考査はありません。そのため普段の出席、真剣に取り組む態度、計画書、レポート授業内で行われる確認テストなど普段の取り組みがたいへん大きな評価となります。常日頃、課題意識を持って授業に臨みましょう。</p>							

教 科	商業	科 目 名	課題研究
-----	----	-------	------

知識・技術	到達目標	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	説明事項	配布プリント	著作権、肖像権について内容を写し、自分なりにまとめることができた。	著作権、肖像権について教師から伝えられた内容を写した。	著作権、肖像権について内容を写すのが不十分であった。
	研究等の内容	プレゼン資料、作品、演習プリント、体験実習日誌、確認テスト	研究等の内容を正しく理解できた。	授業の内容を概ね理解できた。	テーマの内容の調査が不十分であった。
	研究等の手順	研究計画書	手順、研究道具などについて見通しを持って計画が立てられていた。	手順、研究道具などについて一通り、計画が立てられていた。	研究計画書の記述が不十分であった。
	研究等結果の記録	プレゼン資料、作品、演習プリント、体験実習日誌	研究等結果を記録し、考察したことを整理できる。	研究等結果を一通り記録し、整理できた。	研究等結果の記録が不十分であった。
思考・判断・表現	到達目標	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	研究等の目的	プレゼン資料、作品、演習プリント、体験実習日誌、確認テスト	研究テーマを追究し他者に伝えようとする姿が見られた。	研究テーマを設定し、発表に臨む姿が一通り見られた。	研究テーマ設定が不十分である。
	報告会	プレゼン資料	(報告者)研究成果が十分伝わるよう資料データや表現技術を磨いた。(聞く方)報告者の発表を自分ごととして真剣に聞き質問をした。	(報告者)各自の研究成果が伝わるよう資料データや表現技術を高めた。(聞く方)報告者の発表を一通り熱心に聞いた。	(報告者)研究成果が伝わるよう資料データをまとめるのが不十分であった。(聞く方)発表者の方を見て一通り聞く姿勢が不十分であった。
研究等結果の考察	プレゼン資料、作品、演習プリント、体験実習日誌	研究等結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	研究等結果を考察できた。	研究等結果を十分考察しなかった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業時の各研究テーマへの取組	プレゼン資料、作品、演習プリント、体験実習日誌	(産業現場体験実習組)実習先での指示を待ただけでなく自ら次にすべきことを考えて行動した。(その他の生徒)研究内容を追究し、深掘りできた。	(産業現場体験実習組)実習先での指示通りに行動できた。(その他の生徒)テーマに沿った研究等を通り行う姿が見られた。	(産業現場体験実習組)実習先の指示や注意事項を理解して行動できなかった。(その他の生徒)研究テーマに一通り取り組む姿が見られなかった。
	心がけたいことと研究等の振り返り	プレゼン資料、作品、演習プリント、体験実習日誌、振り返りシート	使用した材料、発表資料等で次回に活かせるように反省をもとに考えられた。	使用した材料、発表資料等で次回に活かせるように振り返りができた。	振り返りが不十分である。
報告会の発表	プレゼン資料、発表の様子、聞く様子	内容、プレゼン技術が聞き手に説得力を持って伝わった。	内容、プレゼン技術が聞き手に概ね伝わった。	内容、プレゼン技術が不十分である。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	商 業 総合実践	履修学年 単 位 数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学 習 の 目 標		・商業の各分野に関する知識と技術を実践的活動を通して総合的に習得させ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を育てる。					知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		準教科書 (実教出版)総合実践 同時同業法の実践取引「三訂版」 副教材 (実教出版)Webで学ぶ総合実践演習スーパー実践くん							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 総合実践の基礎 第1章 総合実践の学習にあたって 第2章 対応の心得	○総合実践の心構えを習得します。 ○総合実践の目標・学習方法・心得を学習します。		○	○	○	
		5月～ 6月中	第2編 基本取引 第1章 取引開始にあたって 第2章 仕入取引	○封筒の書き方、印鑑について、インデックス、話し方と言葉遣いについて実習します。 ○実践ソフトウェアの使い方、情報モラルについて習得します。		○	○	○	
			第3章 販売取引	○文書の流れ(見積依頼・発注・売買契約・納品・代金支払い)について学習します。 ○文書の流れ(見積り・受注・売買契約・発送・代金受け取り)について学習します。		○	○	○	
		6月中～ 7月	業務をする時の服装、立ち居振る舞いについて、実践を通して学習します。			○	○	○	
	2 学 期	9月	実践ソフトを使った学習にあたって 第1章 同時同業取引演習	○基本的概念を学び、登録や基本操作を習得します。 ○演習の前提条件(取引の流れ・市場構成と取扱商品・給与台帳・期首残高・名刺作成・株式会社設立について学習します。		○	○	○	
		10月		○仕入業務について学習します。		○	○	○	
		11月	第2章 模擬実践取引演習	○販売業務について学習します。		○	○	○	
		12月		○支払業務と決算準備について学習します。		○	○	○	
	3 学 期	1月	決算処理等、総復習	○決算期末処理を行い、財務諸表を作成します。また、これまで使用した書類などの整理をします。		○	○	○	
	学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等	<p>模擬会社を立ち上げ、仕入や売上、小切手の作成、帳簿記入、給料の計算、お金の流れなどを模擬取引を実際におこない、取引の流れや会社の仕組みを実践を通して学びます。</p> <p>パソコンによる総合実践 ※スーパー実践くんソフトを使い模擬取引をおこないます。</p> <p>とくに予習は必要ありませんが、継続した流れの授業になります。常に相手(取引相手や職場の同僚など)がいるということを認識した授業をします。欠席や授業中に終わらなかった内容については、次回の授業までに終わらせておかないと相手先や同僚に迷惑をかけてしまう、ということを念頭におきましょう。</p>							
評 価 方 法	<p>(1) 知識・技術(授業態度、学習課題への取組、考査等)</p> <p>(2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等)</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組)</p> <p>単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)</p>								
備 考 欄									

教科	商業	科目名	総合実践
----	----	-----	------

知識・技術	到達目標	○商業の各分野における基礎的・基本的な知識を身に付け、総合的に活用する事ができる。 ○同時同業法、模擬実践取引による取引の流れを理解している。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業 定期考査	ファイル (文書・帳票等) 検印時 実践くん 定期考査	今までに学んだ商業の知識や技術を十分に活かしながら、主体的に学習を進める事ができる。	今までに学んだ商業の知識や技術を十分に活かしながら、学習を進める事がおおむねできる。	今までに学んだ商業の知識や技術を十分に活かしながら、学習を進める事が不十分である。
	授業	ファイル (文書・帳票等) 検印時 実践くん	本時の目標・取引内容・取引の流れを十分に理解し、主体的に学習を進めることができる。	本時の目標・取引内容・取引の流れを概ね理解し学習を進めることができる。	本時の目標・取引内容・取引の流れの理解が不十分である。
授業	検印時 実務実践 営業日誌 面接	ビジネスマンとしての心構え・態度・適切な言葉遣い、対人対応や話法などビジネス実務マナーの知識・技術が身につく。	ビジネスマンとしての心構え・態度・適切な言葉遣い、対人対応や話法などビジネス実務マナーの知識・技術がおおむね身につく。	ビジネスマンとしての心構え・態度・適切な言葉遣い、対人対応や話法などビジネス実務マナーの知識・技術が身につくことがない。	
思考・判断・表現	到達目標	○実際の企業で仕事に従事するために必要な資質を身に付けている。また、ビジネスに必要な表現力を身に付けている。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業 定期考査	ファイル (文書・帳票等) 検印時 実践くん 定期考査	本時の取引内容・取引の流れを十分に理解し、必要な文書等を自ら判断し作成できる。	本時の取引内容・取引の流れをおおむね理解し、必要な文書等を判断し作成できる。	本時の取引内容・取引の流れの理解が不十分で、必要な文書等を作成できなかった。
	授業	ファイル	インデックス等を利用するなど工夫し、取引ごとにファイル整理が十分になされている。	インデックス等を利用するなど工夫し、取引ごとにファイル整理が概ねなされている。	ファイル整理が不十分である。
	授業 定期考査	検印時 実務実践 営業日誌 面接 定期考査	ビジネス実務マナーの知識・技術が十分身につくことができ、活用することができる。	ビジネス実務マナーの知識・技術が身につくことができ、おおむね活用することができる。	ビジネス実務マナーの知識・技術が不十分で活用することができない。
授業	同僚との協調性	職場の人間関係やチームワークを築き協力して仕事に従事し課題を十分に解決することができた。	職場の人間関係やチームワークを築き協力して仕事に従事し課題をおおむね解決することができた。	職場の人間関係やチームワークを築き協力して仕事に従事し課題をおおむね解決することが不十分であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	○自分の意見や考えを的確に表現できている。仕事に関心を持ち、常に考えるという態度がある。進んで学習しようとしている。			
	場面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	出勤簿 営業日誌	実際の企業で仕事に従事していることを意識し、時間に余裕を持って出勤できた。	概ねできた。	欠勤や遅刻が多かった。
	授業	出勤簿 営業日誌	実際の企業で仕事に従事していることを意識し、始業開始と同時に仕事を始められる準備ができています。	概ねできた。	不十分であった。
	社会人を意識し、何をすべきかを考えた自主的な行動	実践ファイル 実践くん 仕事への取組	欠勤・仕事のやり残しについて、次回の始業開始までに自主的に課題を進めることができた。	欠勤・仕事のやり残しについて、次回の始業開始までに課題を進めることができた。	不十分であった。
心掛けたいこと 授業の振り返り	営業日誌 仕事への取組	次回以降心掛けたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科	教科 科目名	商業		履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		観光ビジネス					知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
教 材		使用教科書 実教出版株式会社 観光ビジネス 副 教 材 適宜配付する観光パンフレット、リーフレットなどを用いる。							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	イントロダクション なぜ観光ビジネスを学ぶのか ・地域の魅力と観光ビジネスの可能性について考えてみる。 第1章 観光ビジネスの概要 ・観光ビジネスの担い手と特徴について学習する。			一 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		5月	第1章 観光ビジネスの概要 ・観光ビジネスの動向について学習する。				○	○	○
		6月	第1章 観光ビジネスの概要 ・日本の観光政策について学習する。 第1章 観光ビジネスの概要 ・観光ビジネスと地域について考察し、調査する。				○	○	○
		7月	第2章 観光ビジネスの主な産業 ・1 旅行業 2 宿泊業 について学習、実習する。 第2章 観光ビジネスの主な産業 ・3 旅客輸送業 について学び、運賃計算の演習をする。 第2章 観光ビジネスの主な産業 ・4 娯楽業 5 その他の産業について学習する。				○	○	○
							○	○	○
							○	○	○
	2 学 期	9月	第3章 観光ビジネスのマーケティング ・観光ビジネスの顧客について学習する。 第3章 観光ビジネスのマーケティング ・観光ビジネスにおけるマーケティングの意義について考察する。			二 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		10月	第3章 観光ビジネスのマーケティング ・観光ビジネスのマーケティング戦略について考える。 第3章 観光ビジネスのマーケティング ・マーケティング戦略の立案の実習をする。				○	○	○
		11月	第4章 観光資源の発見と活用 ・観光資源とは何かについて学習し、調べる。 第4章 観光資源の発見と活用 ・観光資源の保護と保全について学習する。 第5章 地方自治体の観光政策 ・観光政策の概要、実施内容について学習する。 第5章 地方自治体の観光政策 ・各自治体の観光政策を参考にして各自で観光政策を作る。				○	○	○
		12月	第6章 観光ビジネスと観光まちづくり ・観光まちづくりとは何かについて考察する。				○	○	○
							○	○	○
							○	○	○
3 学 期	1月	第6章 観光ビジネスと観光まちづくり ・観光まちづくりとは何かについて考察する地域活性化のプロセスについて学習する。 第6章 観光ビジネスと観光まちづくり ・地域活性化と観光まちづくりの実践演習をする。 観光とSDGsについて、自分の提案する観光について ・ポスターやスライドを用いて発表をする。			卒 業 考 査	○	○	○	
						○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等	観光を大局的にとらえ、自身の地域の身近な課題設定をしていくことが大切です。教科書に書いてある用語を暗記するような学習ではなく、自身が自ら設定した地域の課題に対して「観光」と「ビジネス」という視点から考察し、学術的かつ論理的に問題解決ができるように教科書を活用して下さい。また、地域に深く関わっていく姿勢も大切になります。授業以外でも積極的に行動を起こし、自ら「問いを立てる」ことを意識して学習を進めて下さい。								
評 価 方 法	(1) 知識・技術(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄	観光ビジネスを学ぶとき、観光をする側の立場で物事を考えることはできますが、観光の目的地に住む現地の生活にマイナスの影響をもたらしてしまうこともあり、そういった課題(例 オーバーツーリズム)について善処できるような、観光客も現地の人も共生できる社会のあり方について考える一端になればと思います。								

教 科	商 業	科 目 名	観光ビジネス	
-----	-----	-------	--------	--

知識・技術	到達目標	観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた。	内容を写すことができた。	全く板書事項を写さなかった。
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	演習の手順	レポート 演習プリント	演習用に用いた資料等を適切に使い、図解や解答を導き出せた。	資料等を使って、図解や解答をおおむね導き出せた。	必要な資料の使い方が不十分であった。
	演習結果の記録	レポート 演習プリント	演習結果を十分記録・整理することができた。	演習結果をおおむね記録できた。	演習結果の記録が不十分であった。
思考・判断・表現	到達目標	観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 ワークシート 定期考査	授業の目的を理解し、それを自分の言葉で発表できる。	授業の目的をおおむね理解できた。	目的の理解が不十分であった。
	課題や仮説の設定	ワークシート レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説をおおむね設定できる。	課題や仮説の設定が不十分である。
	演習結果の考察	ワークシート レポート 発表	演習結果の考察が十分できた。	演習結果をおおむね考察できた。	演習結果の考察が不十分であった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート 課題への取り組み	授業で詳しく扱わなかった内容に関しても触れており自分なりに分かりやすく表現をしていた。	授業で扱った内容を分かりやすくスライドで表現していた。	授業で取り扱った内容を把握しなかった。
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りがおおむねできた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習 個人調べ学習時	ノート レポート 発表	積極的にグループ学習や個人調べ学習に取り組んだ。	他の生徒の意見をおおむね聞くことができ、また自分の意見も言えた。	グループ学習や個人調べ学習への取り組みが不十分である。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	商業 原価計算	履修学年 単 位 数	3学年 4単位	考 査 範 囲 困	評価の観点		
学習の目標		○製造業における原価計算の基本的な考え方と会計処理(計算方法や記帳方法)に関する知識と技術を習得する。 ○原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報を活用する能力と態度を育てる。					知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		教 科 書 東京法令出版 原価計算 副 教 材 『完全段階式標準検定 簿記問題集 全商1級原価計算』							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第Ⅰ編 原価と原価計算	○原価の概念/原価計算の特色と仕組みについて学習する。	一 学 期 中	○	○	○	
		5~6月	第Ⅱ編 原価の費目別計算	○材料・労務費・経費の計算について学習する。	一 学 期 中	○	○	○	
		7月	第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算	○個別原価計算と製造間接費の計算について学習する。	一 学 期 末	○	○	○	
	2 学 期	9月	第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算	○部門別原価計算について学習する。	二 学 期 中	○	○	○	
		10月 ~11月		○総合原価計算について学習する。	二 学 期 末	○	○	○	
		12月	第Ⅳ編 内部会計	○製品完成と販売/本社・工場会計について学習する。		○	○	○	
	3 学 期	1月	第Ⅳ編 内部会計	○本社・工場会計/製造業の決算について学習する。	卒 業	○	○	○	
			第Ⅴ編 標準原価計算	○標準原価計算の目的と手続き/差異分析について学習する。 ○直接原価計算の目的と財務諸表作成について学習する。		○	○	○	
	学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。						
評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・考査への取り組み等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)~(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	商 業	科 目 名	原価計算
-----	-----	-------	------

知識・技術	到達目標	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、原価計算から得られる情報を的確に処理することができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	原価と原価計算の概要について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	原価と原価計算の概要についておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身に付けている。	原価と原価計算の概要についての理解が不十分であり、関連する技術も身に付いていない。
	授業	演習課題 (副教材等) 小テスト	学習内容を十分に理解し解答することができた。	学習内容を概ね理解し解答することができた。	学習内容の理解が十分でなかった。
思考・判断・表現	到達目標	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業 定期考査	ノート等 定期考査	原価と原価計算について自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	原価と原価計算について自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用にある程度取り組もうとしている。	原価と原価計算について進んで学習せず、適切な原価情報の提供と効果的な活用に取り組もうとしていない。
	授業	演習課題 (副教材等) 小テスト	学習内容を十分に理解し解答することができた。	学習内容を概ね理解し解答することができた。	学習内容の理解が十分でなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	製造業における原価計算と工業簿記に関心をもち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	演習課題 (副教材)	原価と原価計算について自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	原価と原価計算について自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用にある程度取り組もうとしている。	原価と原価計算について進んで学習せず、適切な原価情報の提供と効果的な活用に取り組もうとしていない。
	提出物	課題への取り組み	課題の内容を正しく理解し、期限内に提出できた。	課題の内容をおおむね理解し、提出できた。	全く提出できなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	商業		履修学年	3 学年	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	ネットワーク活用		単 位 数	4 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを旨とする。									
教 材		使用教科書： 実教出版 ネットワーク活用									
学 習 の 内 容	1 学 期	4	1章 情報通信技術の進歩とビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の進歩に伴いビジネスの形態や組織内におけるビジネスの進め方が変化していることを学び、情報通信ネットワークをビジネスに活用することの重要性を理解する。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につける。 	1 学 期 期 末	○	○	○			
		5	2章			<ul style="list-style-type: none"> ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につける。 	2 学 期 中 間	○	○	○	
		6	情報コンテンツの制作					2 学 期 期 末	○	○	○
		7							○	○	○
	2 学 期	9	3章 企業情報の発信とWebデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的なWebページ制作手順を理解する。 ・Webページ制作について必要な基本的な知識と技術を身につける。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解する。 ・ビジネスにおいてインターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について、企業における具体的な事例と関連付けて理解する。 	2 学 期 期 末	○	○	○			
		10				学 年 末	○	○	○		
		11	4章 インターネットと情報セキュリティ				○	○	○		
		12									
	3 学 期	1	5章 電子商取引とビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引の意義や役割について理解する。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解する。 	○	○	○				
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項やプレゼン等を参考に、ノートやタブレットに自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのビジネス活動と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
	評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・実技演習への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実技演習への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実技演習・考査への取組等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
	備 考 欄										

教 科	商業	科 目 名	ネットワーク活用
-----	----	-------	----------

知識・技術	到達目標	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項 プレゼン提示	課題提出	課題をよく理解し、工夫してまとめることができた。	おおむねまとめることができた。	ほとんどまとめることができなかった。(欠席を含む)
	授業の内容	単元別テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。	授業の内容をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実技の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた。	手順をおおむね理解できた。	全く理解できなかった。
	実技の記録	レポート	実技結果・作品を記録し、考察したことを整理できる。	実技結果を記録できた。	全く記録しなかった。
思考・判断・表現	到達目標	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	発 表 単元別テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる。	授業の目的を理解できた。	全く理解できなかった。
	課題や 仮説の設定	レポート 発 表	課題や仮説を設定し、発表できる。	課題や仮説を設定できる。	課題や仮説を設定できない。
	実技結果 の考察	レポート 実技作品 発 表	実技結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる。	実技結果を考察できた。	全く考察できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から 疑問に思うこと、 その答え	課題への 取り組み	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている。	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた。	特に独自性はなかった。
	心がけたいこと と授業の振り返り	レポート 振り返り シート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる。	今回の授業の振り返りができた。	振り返りが不十分である。
	グループ学習	ノート 実技作品 発 表	積極的に活動した。	意見を聞くことができた。	活動に参加しなかった。

